

短大特任教員教育研究業績書

平成 30年 5月 7日

氏名	ふりがな	所属	職 位	性別
屋宜 久美子	やぎ くみこ	保育学科 通信教育課程	教授・准教授・ 講師 助教	男・ 女

担 当 科 目 名

造形表現Ⅰ・Ⅱ

学 歴

和暦(西暦)年 月	事 項	学位
平成15(2003)年9月	中国雲南民族大学 留学(平成16年7月まで)	
平成17(2005)年3月	沖縄県立芸術大学美術工芸学部美術学科絵画専攻油画 卒業	学士(芸術)
平成19(2007)年3月	東京藝術大学大学院美術研究科修士課程美術専攻芸術学研究領域美術教育 修了	修士(美術)
平成22(2010)年3月	東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程美術専攻芸術学研究領域美術教育 修了	博士(美術)

教 育 歴 ・ 職 歴

名 称	期 間	教育内容又は業務内容
都留文科大学文学部初等教育学科 非常勤講師	平成24年5月～平成25年3月	担当：図工実技演習[平面]、基礎彩画実技、彩画実技
沖縄県立芸術大学美術工芸学部美術学科絵画専攻 非常勤講師	平成25年12月	担当：絵画特論Ⅱ
秋田公立美術大学美術学部美術学科美術教育センター 助手	平成26年4月～平成27年3月	授業補助、センター運営補助
沖縄県立芸術大学美術工芸学部美術学科絵画専攻 助教	平成27年4月～平成30年3月	担当：絵画基礎、凸版実習、絵画D、油画Ⅱ、油画Ⅳ、古美術研究旅行
沖縄県立芸術大学附属研究所 共同研究員	平成29年4月～現在	研究に従事
沖縄県立芸術大学美術工芸学部美術学科絵画専攻 非常勤講師	平成30年4月～現在	担当：絵画(工)・(芸)・(彫)・(デ)、油画Ⅰ～Ⅳ・日本画Ⅲ、絵画研究Ⅰ・Ⅱ
小田原短期大学	平成30年4月～現在	保育学科通信教育課程 講師 担当：造形表現Ⅰ・Ⅱ

所 属 学 会 等

名 称	活動期間	活動内容(役職等の活動を含む)
美術教育研究会	平成19年4月～現在	会員、学生委員(平成21年4月～平成22年3月)、編集委員(平成22年4月～平成24年3月)、幹事(平成24年4月～平成26年3月)
大学美術教育学会	平成27年4月～現在	会員
美術科教育学会	平成27年4月～現在	会員
こども環境学会	平成27年4月～現在	会員

社 会 活 動 等

名 称	活動期間	活 動 内 容
100点の絵画作品展示プロジェクト	平成27年4月～現在	沖縄県立芸術大学・那覇市立病院 担当：運営・作品展示
ふるさと図画コンクール審査委員	平成28年8月	主催：一般社団法人 沖縄しまたて協会 担当：小学校低学年の部、高学年の部、中学生の部審査委員

絵画作品展示プロジェクト	平成29年8月～現在	沖縄県立芸術大学・琉球大学医学部附属病院 担当：運営		
こらくりアーツ2017、ワークショップ	平成29年12月	南城市・沖縄県立芸術大学 地域包括連携事業 担当：教員・学生と共にワークショップを実施		
担当教科目に関する資格・免許等				
名 称	取得年月	取 得 機 関		
高等学校教諭専修免許状 (美術)	平成29年8月	沖縄県教育委員会		
高等学校教諭一種免許状 (工芸)	平成29年8月	沖縄県教育委員会		
中学校教諭専修免許状 (美術)	平成29年8月	沖縄県教育委員会		
研究実績に関する事項				
代表的な著書、論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 東京藝術大学美術教育研究室編『美術と教育のあいだ』	共著	平成23年8月	東京藝術大学出版会 pp. 3-24	[著者] 小松佳代子、本郷寛、木津文哉、屋宜久美子、他10名 [担当] 第一章「美術制作における作家と世界のつながり」 絵画表現の制作過程における心的変化に着目し、表現活動を行うこと自体の学びや価値について考察した。子どもの遊びや身体論における型の思想を手がかりに、行為の反復とスタイル化が表現世界への没入を支える要素であることを導きだした。さらに制作が、世界と対峙する基準軸の構築へつながることを導きだした。
(学術論文) 「美術作品制作における個人の表現の普遍性ーカラー・フィールド・ペインティングにおける作家と世界のつながりー」	単著	平成22年3月	東京芸術大学 博士学位論文 p130	【査読有り】 カラー・フィールド・ペインティングの作家の制作を取り上げ、素材、技法、制作環境と表現の関係性を考察した。目的から逆算されない制作の深部を共生的な植物的活動ととらえ、連鎖の中に位置付く自己への気づきをもたらすと同時に、観者にとっても世界と出会い直す場となることを導きだした。
「原風景に触れる場としての美術制作ーマーク・ロスコの制作を手がかりとしてー」	単著	平成23年6月	美術教育研究会 『美術教育研究』 NO. 16/2011 pp. 1-13	【査読有り】 美術制作を作家が自己の原風景と出会う場所であるととらえ、作品の展示方法や展示場所と生成の関係性に注目し、作品を通した観者との感情の共有の可能性について考察した。
(その他) (実践報告) 「スポーツ選手に対する美術教育実践の試みー美術における学びの意味を考えるためにー」	共著	平成24年3月	東京芸術大学 JSPS 科研費(挑戦的萌芽研究 21652014、代表者小松佳代子) 『美術とスポーツにおける身体観の相違についての理論的・実践的研究』 pp. 43-55	[著者] 小松佳代子、屋宜久美子 美術実践において生じる学びの姿を捉え美術が人間形成にいかに関わるかを導き出すことを目的とした。美術作家の視点から、スポーツ選手を対象とした美術プログラム実践(人体クロッキー)における線、視点、意識の変化についての考察を担当した。

「遊びと生成の世界ー未就学児対象の造形ワークショップ実践を通してー」	単著	平成 27 年 5 月	美術教育研究会 『美術教育研究』 NO. 19/2013 pp. 30-39	【査読有り】 発達段階や個性の異なる幼児が集まるワークショップという場において、表現活動に没頭するために必要な要素は何かを、実施状況の異なる 4 回の実践を比較する中で考察した。
「参加者間の相互作用を促すアートワークショップについての一考察」	単著	平成 28 年 3 月	秋田公立美術大学 『秋田公立美術大学研究紀要』第 2 号 pp. 107-114	幼児と保護者を対象に、にじみ絵を共通の題材としながら内容、進行、環境を改善して取り組んだ 3 回の実践について述べた。個々の表現活動を充実させながら、同時に他者との交流へと開かれていく活動の構造について考察した。
「多様な子どもの参加を目指した「偶然性」のアートワークショップー特別支援学校中 学部生徒と保育園児の交流に着目してー」	共著	平成 29 年 3 月	大学美術教育学会 『美術教育学研究』 第 49 号 pp. 409-416	【査読有り】 JSPS 科研費(基盤研究 C JP26370098、代表池亀直子)、[著者] 屋宜久美子、池亀直子 アートワークショップの持つ「偶然性」の要素に着目し、芸術表現活動における多様な子どもの参加について検討することを目的としている。特別支援学校中 学部生徒(知的障害児)と保育園児の交流において、自閉症児の集団活動参加と就学前の子どもに対する障害理解教育を実現したワークショップの報告である。
「モダンテクニックの技法習得から表現へー沖縄県立芸術大学における授業実践を通してー」	単著	平成 30 年 1 月	沖縄県立芸術大学 『教職年報』第 3 号 pp. 33-42	沖縄県立芸術大学において実施した授業「絵画 D」の実践報告である。授業時の学生の様子とコメントペーパーを振り返り、学生が技法の習得から表現へと展開する過程について考察し、モダンテクニックの持つ利点と課題について検討を行った。
(学会発表) 「スポーツ選手に対する美術教育実践の試みー美術における学びの意味を考えるためにー」	共同	平成 22 年 11 月 9 日	美術教育研究会第 16 回大会	[発表者] 小松佳代子、屋宜久美子 口頭発表。3 つの大学で実践した美術プログラムの意義とその結果について紹介し、実践の場で生じたことの意味を学習論的視点と美術作家による視点によって分析した。
「多様な子どもの参加を目指したアートワークショップの環境構成ー保育園児と特別支援学校生徒による「偶然性」の交流に着目してー」	共同	平成 28 年 9 月 20・21 日	大学美術教育学会第 54 回大会 横浜国立大学	JSPS 科研費(基盤研究 C JP26370098、代表池亀直子) [発表者] 屋宜久美子、池亀直子 ポスター発表。アートワークショップの持つ「偶然性」の要素に着目し、芸術表現活動における多様な子どもの参加を実現するワークショップ環境の構成について検討することを目的としている。ワークショップの概要と環境構成、社会的包摂に向けたワークショップの展望について報告した。
(ワークショップ) 「カラー・フィールド・ペインティングにおける色彩の効果と造形ワークショップへの応用に関する理論的・実践的研究」	共同	平成 26 年 5 月ー平成 27 年 3 月	秋田公立美術大学競争的研究費	[従事者] 屋宜久美子(代表)、村川弘城、他 3 名 絵の具の流動性や色彩の効果に着目しながら、室内における絵の具を用いた表現活動の可能性について検討した。幼児が参加する際にハードルとなる、安全性や手順に応じた進行の難しさを取り除くため改善を重ねながら 5 回のワークショップを実施し、成果を報告書にまとめた。

「参加者間の交流を促す美術ワークショップ素材-未就学児の親子を主な対象として-」 (展覧会) 個展 GALLERY EXPECTS vol.1	共同	平成28年4月～平成29年3月	沖縄県立芸術大学教育研究支援資金	〔従事者〕屋宜久美子(代表)、田中睦治、他16名未就学児の親子を対象とした美術ワークショップにおいて、参加者間の交流を促す内容や素材を考案し、6回のワークショップを実施した。講師の振り返りやアンケートを通して効果を検証し報告書にまとめた。
個展	単独	平成20年2月	フタバ画廊	『Gallery』2008. Vol.2 展覧会案内掲載 「葬華-誕華」絵画255.4×120cm、他8点出品
個展	単独	平成20年6月	アーツスペース羅針盤	『美術の窓』No.296 作家紹介掲載 「葬華-誕華」絵画88×120cm×4枚、他8点出品
個展-万有引力の法則-	単独	平成24年6月	Café Ju-tou	「万有引力の法則」絵画 直径120cm、他9点出品
RAM2014 : Random Access Memories	共同	平成26年12月	渡辺幸四郎邸	秋田公立美術大学助手による展覧会。「Memory Color」インスタレーション、サイズ可変出品。
夏の芸術祭-次代を担う若手作家作品展-	共同	平成28年8月	日本橋三越本店	木津文哉教授の推薦により出品。「万有引力の法則」絵画60.6×44.5cm 出品(平成23年にも出品)。
沖縄県立芸術大学教員作品展	共同	平成28年9月	沖縄県立芸術大学附属芸術資料館	「万有引力の法則」絵画100×70cm、他1点出品
個展-廻航-	単独	平成29年1月	ギャラリーアトス	『琉球新報』『沖縄タイムス』に展評掲載。「廻航-22の記憶」絵画65.2×45.5cm、他23点出品
VOCA 展 現代美術の展望-新しい平面の作家たち	共同	平成29年2月	上野の森美術館	小林純子教授の推薦により出品。「gravitation」絵画240×120cm×3枚出品。
結展 vol.8	共同	平成29年3月(平成18,19,21,22,23,26,27)	沖縄県立博物館・美術館 県民ギャラリー1,2	平成29年度沖縄県立博物館・美術館文化・芸術支援事業。「沈殿の海-記憶-」絵画、他3点出品。
ドローイングコミュニケーション展	共同	平成29年5月(平成27～出品)	沖縄県立芸術大学附属芸術資料館	沖縄県立芸術大学、琉球大学、沖縄大学、福岡教育大学、名古屋造形大学、東北生活文化大学、サラエボ大学の7大学による展覧会。「Drawing2017」出品。
沖縄県立芸術大学・国立臺灣藝術大学交流展	共同	平成29年10月	沖縄県立芸術大学附属芸術資料館	沖縄県立芸術大学、台湾芸術大学の2大学による交流展。「質量を有するすべての物体は互いに引き合うということ」絵画出品。
未来への視座 VF16	共同	平成29年11月(平成28～22,20にも出品)	ギャラリーTEN アーツスペースムーニー	「日々の手触りについて」絵画、他1点出品。
その他(表彰等) 東京藝術大学 平山郁夫賞	平成18年度	東京藝術大学学内奨学金		
東京藝術大学 修了作品買上	平成19年2月	東京藝術大学大学美術館所蔵		
日本時間生物学会デザインコンペ 大賞	平成22年3月	絵画「葬華」直径88cm×2点の作品が大賞受賞。学会誌表紙に作品掲載。		